

(9) 書写教育研究会

会 長 黒田 健二（西土佐中学校）

副会長 太原 景子（具同小学校）

事務局 岡本 恵子（東山小学校）

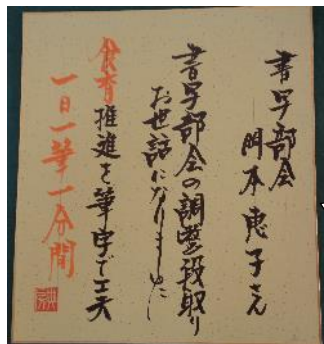
1. 研究主題 「教育活動に活かせる書写教育」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和6年 8月2日（金）	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容：小筆でスキルアップ ～身近な書～ 講師：小花 典明 （前 四万十市教育研究所所長）	しまんとぴあ	19名参加

3. 今年度の取り組み

今年度も「教育活動に活かせる書写教育」というテーマを設定し、講師はこれまでもお世話になっている小花 典明先生にお願いした。昨年は暑中お見舞いを自由な文面で書き、水彩画用に筆で挿絵等を描き入れる活動を行った。今年度の研修会でも同じく「小筆でスキルアップ～身近な書～」の内容で研修を行った。身近にある筆ペン（中字）を使っの研修では、軸、全体のバランスを大切にすることに気をつけながら、まずはウォーミングアップとして新聞紙に名前の練習書きをした後、お手本の暑中お見舞いを印刷用紙に書く練習をした。その後、小花先生から一人一人へ書いた色紙のメッセージの裏へ各自で返事や自由なメッセージを書き入れた。またその色紙へ水彩画用の筆で挿絵等を描き入れ、その後全員で鑑賞し合った。



小花先生から、
一人ひとりに対して
メッセージを書いて
いただきました。

4. 今年度の成果と課題

最初に新聞紙を使って練習することで、緊張することなくリラックスした気持ちで書に向かうことができた。

毎年のことですが、小花先生に趣向を凝らした内容を設定していただき、初心者でも楽しんで取り組むことができた。

無言で書に向かうことを体験することで、自分の頭で文章を整理したり、相手に伝えたいメッセージを言語化する力が鍛えられたように感じた。先生からいただいた「一日一筆一分間」というメッセージの通り、忙しい毎日の中でも筆ペンで書こうとする気持ちが芽生えた。これからも「書を楽しむ」という気持ちを忘れず、日々の生活の中で筆をとる場面を増やしていき、学校現場での教育活動に生かしていきたい。

＜小花先生より＞

- ・1日1回は筆を取って文字を綴ると、字はおのずと上手くなっていく。
- ・新聞紙や広告の裏へ書くなど、身近なものに綴っていくと、抵抗がなくなる。
- ・自分の名字を基本として、鍛錬して書く。



＜参加者の感想＞

・筆ペンを使うとなると、丁寧な字で書かないといけない、字の大きさのバランスなども整えないといけないという思いで書いていますが、線の太さや長さ、丸みをつけるいろいろな味のある字になってもう少し気楽に取り組んでいいのだと感じました。もちろんきれいな字も必要だと思いますが、楽しみながら取り組んでみたいと思いました。

・毎年のことですが、楽しく書写ができました。色紙を仕上げるというゴールがあったので、それに向かって頭をひねり、本当にあっという間に時間が経ちました。

・丁寧に書く、きれいに書くというだけでなく自分の好きな文字に思いを込めて書くことを大切にしていかなければいけないと改めて感じた。普段から書き続けていくことで、私もより好きだと感じるものができるものにしていきたいと思います。没頭する感覚が久々だったのでとても楽しかったです

・筆ペンを持って集中している時間はとてもいいものだと思います。「一日一筆一分間」頑張りたいです。いい研修でした。小花先生の「自由でいい」という言葉がとても励ましになり、リピーターが多いことが納得できました。

・毎年この書写教育研究会を楽しみにしています。小花先生には「書の楽しさ」をいつも味わわせていただいて感謝です。自分の字に向き合う時間が日々の中ではなかなか取れないのですが、これからも「書」に精進していきたいです。

・初めて書写の部会に参加させていただきました。今回の研修では、書に親しむことの大切さやデジタルにはないアナログの良さについて感じる事ができました。楽しく学ぶことができ、また参加したいなと思いました。

